

自傷行為を繰り返す 高校生への支援

背景や要因
経済的困窮
養育への無関心
デートDV被害の疑い

1 気になる状況

相談内容

高校1年生女子
自傷行為 デートDV被害

経緯と現状

両親は、本人が中学生の時に離婚しており、現在、母親と二人で生活している。母親はうつ傾向にあり、仕事を休むことも多く収入が少ない。本人は、アルバイトをして家計を助けている。近所付き合いはなく親戚など近くに頼れる人もいないため、地域から孤立している。

本人は、遅刻や早退をすることがあるが、ほとんど欠席することなく登校している。親しい友達はいない。

担任が、自傷行為の痕跡を発見した。また、SCによる本人との面談で、アルバイト先で知り合った他校生との間にデートDV被害の疑いがあることが分かった。

学校

SSWrを
要請

SSWr

- 相談の詳細を確認するため学校を訪問し、担任、SC、養護教諭から情報収集を行った。
- 担任の家庭訪問に同行し、家庭環境、母親の様子を確認した。
- 母親は家計に不安を感じているため、福祉部局への相談について協力することを確認した。
- 本人の現状を伝えるとともに、本人の社会的自立に向けた支援の必要性についても確認し、関係機関との連携について理解を得た。

SSWr

学校にケース会議開催を提案

- 参加者の選定や連絡・調整について助言
- 会議にも参加し、支援策について助言

2 ケース会議

アセスメント（課題の背景や要因の見立て）

本人について (生育歴、学校や家庭での様子など)	家族について (保護者・兄弟姉妹等の状況など)	その他 (経済状況、地域社会との関係、家庭の様子など)
<ul style="list-style-type: none"> ● 両親の離婚後、精神的に不安定になっている。 ● 母親は、本人の高校生活や進路等に関心がなく、母親からの愛情を感じられていない。 ● 高校入学後、本人はアルバイトを始め、家計を助けているが、母親からの感謝などはない。 ● 交際相手との関係について悩んでいるが、相談できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 母親と二人で生活しているが、家庭内ではほとんど会話がなない。 ● 母親は、うつ傾向があり、服薬している。仕事を休むことが多いため収入は少ない。 ● 母親は、本人に対する関心が低く、自己中心的である。 ● 母親は、本人に経済的に依存していることを気にしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家計が苦しいため、本人がアルバイトをすることで、家計を援助している。 ● 近所付き合いはなく、親戚など、近くに頼れる人もいないため、地域から孤立している状況がある。 ● 家の中は整理されておらず、本人が落ち着くことができる生活環境ではない。

考えられる背景要因

- 両親の離婚や母親の状況から、愛情や安心感を得られず、家庭内での孤独感が強いと考えられる。
- 学校生活とアルバイトの両立に徒労感を感じ、学校や家庭以外に自分の居場所を求めていると考えられる。
- 交際している他校生からのデートDV被害が疑われる。

現在行っている学校の対応

- 担任、養護教諭 …… 昼休みや放課後に声をかけ、悩みや家庭の様子などについて話を聞いている。
- SC、養護教諭 …… 本人の精神的負担の軽減、心身の健康状態等について相談に乗っている。

プランニング①（課題解決に向けた目標の設定）

長期的な目標

- 将来の進路実現に向けた学校中心の生活を送ることができる。
- 家庭を本人の居場所とすることができる。

短期的な目標

- 交際相手との関係の在り方を自覚し、自分自身を守るよう対処できる。
- 母親との時間を大切にしようと思えるようになる。

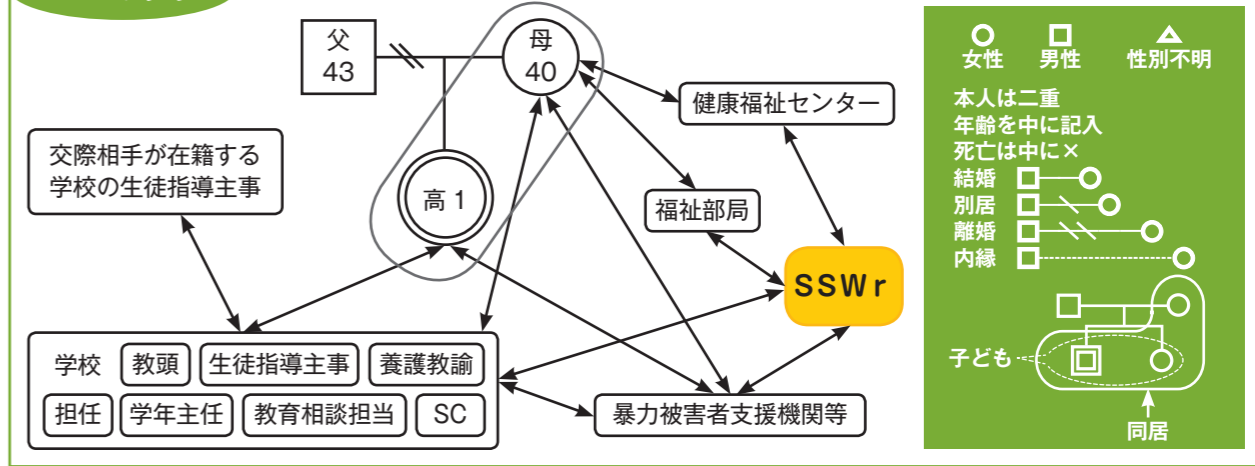
学校は、本人の自傷行為を把握して以降、担任、養護教諭、SCを中心に丁寧に対応していました。また、本人の抱える問題に加え、背景に家庭の経済的な問題もあることが分かったため、学校は関係機関の協力を得る必要があると判断し、依頼がありました。本人、保護者の支援に向けて、関係機関との連絡・調整や、本人と保護者に対する心のケアなど、SSWrとSCがそれぞれの持ち味を生かして対応した事例です。

この事例では、家庭に対する福祉的支援、デートDV被害解消に向けた本人への支援を行う必要がある状況でしたので、今後も協力を得たい関係機関を含めたケース会議を定期的に行うことを提案しました。また、参加者の選定や、関係機関への連絡・調整等についても助言させていただきました。

現在も、本人、母親、先生方の思いを大切にしながら、各関係機関の協力を得て、本人、母親が抱えている問題の解決に向けて支援を続けています。



エコマップ



プランニング②（具体的な手立てと役割分担の決定）

担任、養護教諭

- 本人の心身の状態、家庭や交際状況の把握、自傷行為防止のために、毎日声をかけ話を聞く。
- 母親に学校での様子を報告する。

SC

- 定期的なカウンセリングを行い、心身の健康状態や被害の有無などを把握する。

学年主任、生徒指導主事、教育相談担当

- 組織的な支援体制を整え、配慮事項の確認・周知や担任のサポートを行う。

教頭

- 組織的支援に向けて、校内の学年・関係各部と関係機関との連絡・調整を行う。

健康福祉センター

- 母親と面談し、本人の学校生活等に関心を持たせ、積極的に関わられるよう助言する。

SSWr

- 担任の家庭訪問に同行し、家庭の状況を確認するとともに、福祉部局等と連携しながら育児相談や生活保護等の手続きができるよう支援する。
- 本人にアルバイト代の使い方等、適切な家計支援の方法等について助言する。
- 暴力被害者支援機関等と連携し、本人や母親への相談支援を依頼する。

3 その後の状況

- 家庭において、母親が本人に話しかけたり、アルバイトの苦勞をねぎらったりするようになった。
- 自傷行為の頻度が減り、担任や養護教諭に対して、本人から悩み等を相談するようになった。
- 母親が福祉部局とつながったため、必要な支援を受けられるようになり、母親に精神的なゆとりが見られるようになった。
- 交際は続いているが、本人は、今後アルバイト先を変えることなどにより、交際相手との関係を断とうと考えている。